

令和2年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校関係者評価 1 (評価委員コメント記載 及び まとめ)

評価項目(重点項目)	評価指導	目標(方策・手立て)	判断基準	自己評価	総合評価	自己評価総合的な課題・今後の改善策
1. 教育活動	○教育理念・課程に沿った授業計画・実践をしているか	○「分かる授業」の実践。 ○シラバスを見直し再構築する。	◎年度当初の講義導入時に学生にシラバス・授業計画を基に授業の目標・目的・進捗計画等を伝えながら。 ◎担当科目のシラバスの作成・見直しを年度末又は年度当初に行ったか。	令和元年度 B(2.5)	令和2年度 B(3.1)	●昨年度の改善策である「教務部が一括して製本して学生へ配布する」を計画して、各教科担当の作成遅れが無いように促し実践できた。結果、導入し使用したとの意見がほぼ全数となり、教職員の意識改革としての「シラバス・指導計画事前配布」の成果はあったと判断する。しかし、本来の根本目的である「学生へ授業の目標・目的を浸透させる」にいたってはコメントもなく、教職員の意識を次の段階に向けていく。 結果の考察・分析及び改善策 AO 取り纏め資料とは別に、シラバス・授業計画を講義初日の導入時に必ず配布して、目標・目的を明確にしている。 ○近年、学生の勉学意欲等のせいにはしたくないが、進捗の遅れが顕著になっている。資格試験出題傾向の高い項目にウエイトを置く講義形式にシフトしている。 BO 年度初めにシラバスを使用する年度の計画を学生へ説明し授業を開始した。 ○初めて行う授業については学生に何が足りないかを模索し改善を図り授業を行った。 CO 年度当初には進捗した授業計画を余儀なくされたが、中間報告時点では予定どおりの進捗となっている。 ○理解に時間を要する項目については、資料等の工夫をして授業展開を行っている。次年度の参考としたい。 DO シラバスおよび教科書の目次を使用し、単元変更時に説明を行い、学習内容の把握を実施している。 ○教科書通りの順序で授業を行わず、理解度の上がる順序に変更し学習内容への興味を向上させるよう取り組んでいる。 EO 昨年同様授業開始時にシラバス及び授業実施計画を学生へ配布し、何を学び、どのように進めていくかを確認している。 FO 昨年同様の科目は昨年度の反省を行い、年度授業方法を変えている。また、学生にも定期的に確認を行っている。 ○シラバスを元にした重要な部分(国家試験出題範囲等)や関連性の説明を行い担当科目の重要性を伝えた。 ○重要な部分をピックアップし、理解を深めるためにはどの順番で展開したほうが良いかを年度初めに計画した。
				令和元年度 B(2.8)		
				令和2年度 B(3.1)		
				令和元年度 B(2.7)		
				令和元年度 B(2.8)		
学校関係者評価 ご意見・アドバイス等						●自己評価がプラスに向上しているが、今後も継続して取り組んで頂きたいと思います。 ○キャリア教育は継続していくことが大事。「卒業生講話」をうけて、どう思ったかをアンケートを取り分析してはどうだろうか。
学校関係者評価まとめ						●教育活動の向上は、教務部との連携を図りながら、今後も継続して取り組んで頂きたい。(次の課題を明確にした取り組み。)又、「学生のキャリア意識向上」が目的の実践が、行事の消化で終わっていき目的が達成したとは言えない。その成果を見極めて次につなぐ取り組みが必要。
評価項目(重点項目)	評価指導	目標(方策・手立て)	判断基準	自己評価	総合評価	自己評価総合的な課題・今後の改善策
2. 学習成果	○資格取得率向上を常に考え取り組んでいるか 又 貢献しているか	○過去問題の教材研究を怠らない。 ○必須取得資格の未取得学生を常に意識した指導を行う。	◎現2年生の2級模試(12月期)において、担当した科目(1年・2年次に担当していた、又は担当している)のセクション平均点は6割を超えているか。	令和元年度 B(2.5)	令和2年度 B(2.8)	●11月期2回、12月期3回実施した模擬試験をもとに4セクションをガソリンとジーゼルに分けて正答率を分析した。()内は昨年度の数値。 【2級ガソリン】エンジン：75%(64%)、シャシ：63%(56%)、工学：80%(69%)、法令：92%(78%) ⇒ 全てのセクションで判定基準の6割を超えている。法令は9割を超えているが、シャシは7割に到達しておらず安心は出来ない。正常進捗と判断。 【2級ジーゼル】エンジン：59%(49%)、シャシ：48%(54%)、工学：58(43%)、法令：76(57%) ⇒ 法令以外で判定基準を下回っている。シャシの落ち込みが大きい。ガソリンに比較してジーゼルの進捗は問題である。指導方法の改善が至急必要。 上記から、90%を超える習熟セクションは、2Gの法令しかない。上記の分析を踏まえ、まずは担当教員が現状の分析をのため学生個々の現状を把握して、その改善の方策を学科会で検討して組織で対応したい。
				令和2年度 C(2.3)		
				令和元年度 B(2.8)		
				令和2年度 B(2.6)		
				令和元年度 B(2.8)		
学校関係者評価 ご意見・アドバイス等						○企業との関係構築は出来てきていると思うが、行事に参加する企業が少ないのは立上り残念で申し訳ない。 ○自動車整備士資格試験の対策については、「復習」をどれだけ効果的にやっただかに依っている。「復習」の大事さを学生各々に伝える。
学校関係者評価まとめ						●学校と企業とある一定以上の関係構築はできているが、企業が学校へ積極的に要請する関係までには至っていない。「ともに学生を育てる」意識が広まれば、企業の積極的な参画も生まれるのではないだろうか。(内定生に対して、資格試験を前にして11月頃から数回に分けた個人面談も確実に意識改革と合格率向上に繋がる) ●自己分析のため苦手箇所の割り出しを行わせる。見つかるための数多くの「過去問題チャレンジ」、苦手箇所把握しての「復習」の反復それが合格への自信にも繋がる。

令和2年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校関係者評価 2 (評価委員コメント記載 及び まとめ)

評価項目(重点項目)	評価指導	目標(方策・手立て)	判断基準	自己評価	総合評価	自己評価総合的な課題・今後の改善策
3. 学生支援	○学生と平日頃より良好な関係を築き、学習・進路・生活の支援を行なっているか	○些細なことにも「気づこうとする」精神状況を養う。	◎学科会、学年会、推薦委員会等の開催や開催要望等を行い、学生の情報共有に努め、学生がより良く改善するための指導策教検討等に対して積極的に問題提起・発言・発案を行ったか。	令和元年度	B(2.5)	<ul style="list-style-type: none"> ●「学科会」の平常定例実施ができず、その影響が波及して多方面に支障を来した。懸案であった平常定例実施のための方策を副科長からの提案もあり12月より再開された。今後の定例継続のため現状を注視して行く。 ●先ずは全教員が「学生が主役」であることの原点に立ち返り、入学してくる学生や保護者が「学校・教職員に求めていること(より良い職場、希望の職場への就職や確実な資格取得)」であることを再認識して即行動できる組織の構築を図っていく。そのためには教職員一人ひとりが「迅速な情報の発信と共有」が根幹にあること再認識する。
				令和2年度		
	○学生への目配りを怠らず、退学防止に努めているか	○無欠席の目標を掲げ取り組む。 ○些細なことにも「気づこうとする」精神状況を養う。	◎やむを得ないとの判断(管理職判断)以外の退学者の発生は出ていないか。又、予備軍を適切に指導できているか。 ◎科目担当者として、必ず毎回授業中の情報を担任へ自ら提供したか。	令和元年度	B(2.5)	<ul style="list-style-type: none"> ●【2年生】：退学者なし 休学生1名[年度当初からの休学：学外の異性とトラブル] 【1年生】：退学者1名[進路変更となっているが、学習意欲の欠如と学生生活不応が原因] 休学生1名[自分をみつめ直し復学のための休学となっているが、学習意欲の欠如と学生生活不応が原因] 休学生1名[年度当初からの休学：コロナウイルス感染拡大のための理由] 1年生の退学・休学者について、事あることにあらゆる手段を尽くしたが改善させることは出来なかった。やれる手立ては尽くしている。(担任は初任ではあるが、事前事前のフォローとアドバイスを繰り返ししながら迅速に行動し、誠意ある又熱意ある指導と対応を行った。)
				令和2年度		
					令和元年度	B(2.7)
						○先生方の努力は非常に頭が下がります。現状の取り組みをしっかりと続けて頂ければ大丈夫だと思います。 ○日常の「気づき」「気づこうとする姿勢」が大事。気づこうと意識しない人は、先ず「情報」にも気づかない。よって共有もない。
						●先生方が、入学してくる学生や保護者が学校・教職員に求めていることをより具現化して、「選ばれる学校となる」ための取り組みに感心している。そのための第一歩が「気づく事」。「気づき」「気づかせ」「気づき合える」事の重要性を全教職員が「共有」できれば、「情報を共有する場」の重要性に気づくはず。
評価項目(重点項目)	評価指導	目標(方策・手立て)	判断基準	自己評価	総合評価	自己評価総合的な課題・今後の改善策
4. 教育環境	○教室・実習場の整理整頓に心掛けているか 又 補修が必要な設備を放置せず報告したか	○「学びの場」の環境保全を教員・学生と連携して取り組む。 ○施設保全＝学生満足度と考えると取り組む。	◎教材・機器備品の使用は学科教員も把握しているか、使用後の片付けや清掃は即対応しているか。	令和元年度	B(2.8)	<ul style="list-style-type: none"> ●昨年度、管理体制の徹底を謳い「教材・機器・備品リスト」を利用した[今回の授業で、何をどれだけ使用する]等の申告を行い教員間で把握出来る体制の構築は、コメントから出来ていない様子が伺える。先ずは担当教員自ら、機器の把握と管理体制の重要性を理解しなければ、それに直結する授業の充実もありえないと判断する。「学生が満足する授業構築」の第一歩として考えて欲しい。 ●本校の教室等利用計画は、余裕ある教室を有効活用して教材・教具を常設した実習教室構想を考えているが、未だに1年生に1教室(二輪実習室)しか設置出来ていない。先ずは雑多となっている実習場の教材・機器の整理・整頓・廃棄を行い、徹底した管理体制のもと、電装実習教室を次年度こそ設置したい。
				令和2年度		
	○機器・備品の適切な取り扱いに心掛けたか 又 積極的に必要な機器・設備の要望を行ったか	○コスト意識をしっかりと持った業務を行う。 ○学生満足度を意識して業務を遂行する。	◎学科の予算要求に対して「わかる授業」のための教材の見直しを図り、必要と思われる機器購入等の要望を行ったか。	令和元年度	B(2.6)	<ul style="list-style-type: none"> AO 教室の整理整頓は行っているが、各学年の教材準備室の充実が図れていない。実習場については判断できない。 BO 気が付いた時は、必要に応じ車両修復やベンチエンジン修復を行った。 ◎備品については、使用後未返却のものが多い。後片付けを徹底していきたい。 ◎実習場での機器・備品の把握を行うための整理整頓に気を配るように意識を向けたい。 ◎補修等の報告は行っているが経過の把握を行う。 DO 授業で使用した物の管理のみとなってしまっている。 ◎補修などが伝達のみとなり、改修への協力まで至っていない。 EO 教室は常に整理整頓に心掛けている。またロッカーが別室にある為、意識し清掃を行うようにしている。 ◎実習場での取り扱いが、教員同士うまくいかない部分が多い。教員間のカリキュラムの把握や声かけ不足を感じる。 FO 使用した機器類は清掃を行い、破損しているものに関しては修理を行った。
				令和2年度		
					令和元年度	B(2.8)
				令和2年度	B(2.6)	<ul style="list-style-type: none"> AO 科目担当者としての、必要な機器・教材については常に要望を行っている。今後、学生募集に関する内容も考慮した機器・教材の購入も要望していきたい。 BO 使用出来ないテストなどが見られる。備品整理時に何が不足しているのか把握が必要。 ◎新技術に対応した機器の要望は行った。新技術が学べる教材を増やしていきたい。 ◎今年度は要望について消極的であった。学生の環境整備の観点からも次年度は意識を高めて行動をする。 ◎年度末に向けて教材の見直しを考える。 DO 取り扱いについては注意を行い、注意喚起もやっている。 ◎教材の見直しの提案ができていない。 EO 現在ある機器・備品での授業を行っているため、多くの情報を収集し、積極的に要望を行っていく必要がある。 FO 現代のエンジンを使用しての授業を行うため奇蹟エンジンの使用を要望した。 ◎今後に向け整備要領書等の準備を行う。
						○学生が興味を示す必要な機材等、先生方との意見を出し合い、今後精査していく必要があるかもしれないと思いました。 ○管理側の「廃棄する意気」がないせいで手が付けられなくなっているのでは、規定に抵触しない範囲で思い切った「断捨離」を行う。
						●教材・教育機器・機械工具は、養成施設にとって大変重要な物。しかしこれらの品質は、保有数よりはるかに重要(規定に抵触しない範囲で)。学生が興味を示す物は「不動」ではなく「実動」する物、さらに「欠損品」ではなく「完全品」である。先ずそのことを判断基準に「廃棄」の見直しを図り、生きた教材・機器類の補充を急ぎ実践する。また、この内容は、企業との連携も必要な箇所である。

令和2年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校関係者評価 3 (評価委員コメント記載 及び まとめ)

評価項目(重点項目)	評価指導	目標(方策・手立て)	判断基準	自己評価	総合評価	自己評価総合的な課題・今後の改善策	
5. 学生募集	○学生募集活動を積極的に行っているか	○募集定員を確保できるように全教職員で取り組む。	◎担当地区の募集目標を達成できたか。 ◎担当校に特化したオリジナル資料を作成して募集活動を行ったか。	令和元年度	B(2.6)	<ul style="list-style-type: none"> ●現在、定員目標に対して78%の充足率(39名の入学手続き)【担当教員内訳】充足率が80%以上:2名、70%以上:1名、60%以上:1名、30%以上:2名、それ以下:1名の状況であり、前年比92.8%と前年より3名不足している。前年には並びたい。今年度の特徴は、既卒者が4名(NGH:1名、宮工:2名、都工:1名)と複数の受験があったこと(昨年度は1名)。また複数名出願頂けた高校は、宮工:2名、海洋:2名、鷗翔:3名、NGH:14名、佐土原:2名と昨年度と同様の6校であった。特筆すべきは、佐土原高校が2年の欠格期間を空けて、小林秀峰高校が3年の欠格期間を空けて、更には都城工業高校が4年の欠格期間を空けて出願があったことは、中原校長先生のご尽力によるものと判断する。 ●今年度、担当地区・担当校の見直しもあり前半は戸惑った面もあったが、後半、安定した訪問をされ実績を出される先生や次年度に向けての確実な準備をされる先生など様々ではあるが、実際の訪問実績は来年度だと感じている。(今年度は、前担当者の実績でもあろうと思う。)募集に対する意識改革「他力ではなく自力」の温度差を未だに感じる面がある。 	
				令和2年度			
				令和元年度			令和元年度
				令和2年度			令和2年度
○学生募集活動において、教育活動成果を適切に対象校担当者に伝えているか	○高校訪問を常に意識して情報発信を心がける。	◎担当の重点校には、毎回面談頂けるMUCファンの先生がいるか。 ◎決められた情報提供に終わらず、高校毎の特色を考慮しプラスαとなる情報提供を行ったか。	令和元年度	B(2.7)	B(2.7)	<ul style="list-style-type: none"> ●本校を支援して下さる各高校の先生方が居られるからこそ今年度の成果に繋がっている。その各高校の先生方との接点は、担当されている本校教員であり前年比92.8%の募集実績は、本校教員の地まぬ地道な取り組みの成果が継続されていると感じる。 ●外部の学生募集は、内部が充実しているからこそ成果が出ると感じる。そのためにも、内部を充実させる教職員、外部でその情報を確実に提供して学生募集につなげる教職員に編成することも必要な現状がある。少しでも成果が見込める募集体制の構築を即検討する。 ●募集の打合せ会で、企画広報部へ全教員から「提案・要望」ができる募集意識の活性化を図りたい。 	
			令和2年度	令和2年度	令和2年度	令和2年度	
			令和元年度	B(2.8)	B(2.8)	<ul style="list-style-type: none"> AO今年度から担当校が変わり、信頼関係の構築を最優先にするため、できるだけ各担当校とも面談する先生を固定している。それゆえ、日程調整が煩雑となる場面も多々ある。今年度は、ポイントを見極めるための模索もあり、訪問校に特化した資料等の作成に苦慮した。 BO毎回、面談して頂ける先生が決まっている高校は少ないが、学校名は覚えていただいている。 ○在校生や卒業生の状況を伝えるなどの状況を提供できた。 ○自己努力の足りなさより、MUCファン先生方の存在を築き上げられていない。基本に立ち返り、足繁く通うことから始める。 ○訪問前に各校の近々の情報を確認することは継続していく。 DOお会いする先生より生徒への案内を行っていただけ学校も出てきている。 ○学校別に説明内容を変更している。 EO昨年度担当の先生との関係が良好であったため引き継ぎもスムーズに行うことができ、本校のファンとなる先生方が多くいる。今後も関係を維持できるよう対応していく。 FOいつも面談して頂けるファンの先生がいる。 ○次年度は各校に考慮した情報提供を行っていく。 	
			令和2年度	B(2.8)	B(2.8)	<ul style="list-style-type: none"> ○学生募集に関しては、企業にも今まで以上に応援を要請してもいいと思います。業界全体で取り組む課題だと思っています。 ○先生方は、我々の母校のため頑張っておられます。その「熱意」がすべてに波及して、良い結果に継続連綿しています。我々も協力します。 	
学校関係者評価 ご意見・アドバイス等						<ul style="list-style-type: none"> ●学生募集に関しては、宮崎県の自動車整備士養成の基幹養成施設であり、それは自他共に認知されてしかるべき現状がある。よって、宮崎県の自動車整備士養成は、宮崎県の自動車業界全体で取り組むべき課題であり、学校は今まで以上に企業に応援要請をするべきだと感じている。 ●学生募集については、先生方の「熱意」がすべてに波及しての成果だと感じている。後援会・同窓会も連携して応援したい。 	
学校関係者評価まとめ							

※授業評価は4段階評価です。よって最高評価は4.00です。

■ 評価の基準は、 A(4):期待以上、 B(3):ほぼ期待通り、 C(2):やや期待を下回る、 D(1):改善を要する